

家庭での親の立場は？

本当の喜びとは

1. 親の視野

親の視野が狭いと子どもの不安は募るばかりです。広い視野を持って子どもに接することが大切です。進路を子どもの一生の問題としてとらえる目が必要です。一人の人間が「どう一生を送るか？」という選択の第一歩としてとらえることです。

2. 自分を見せる親

自分の人生を生々の形で子どもに語ることも必要です。そこで、親の人生観がにじみ出てきます。

3. 子どもへの対応

子どもに夢を語らせたり、夢を持たせることも大切です。勉強と成績だけでは夢は語れません。そこで必要になるのは、子どもの個性を発見してあげること、日常生活の中で子どもの輝く場面をつくることです。

4. 子育て

肉体的にも精神的にもたくましく育てることが必要です。では、どうしたらたくましく育つか。生活のリズム、家庭学習、やる気(家庭円満)、豊かな心(家庭の文化)、逆境をつくる(温室育ちの撤廃)等を意識的に実行していくことが必要です。

先輩から学ぶ

2年前、前任校で高校1年生の先輩6名を招いてパネルディスカッション形式で進路講演会を実施しました。その時に、その先輩達が話した高校生活で大切なことを何点かあげてみます。参考にしてください。

- 熱中できるものを見つけてほしい。
- 高校は自由、自分から情報収集を。
- 課題をやることは自分を向上させる。
- 運動も大事、体力をつけること。
- 基礎力がないと上にいくと落ちていく。
- 部活動と勉強を両立するためには休日、週末を有効に使うこと。
- 授業が大事、きちんと受けること。
- 自制心をきたえることが大事。

テレビでおなじみのメンタリスト「ダイゴ」さんの話をします。彼は、小学校からいじめを受けていて、ある時「自分が変わらないと周りは変わらない」と思うようになり、必死に今の自分を変える努力をしたそうです。その努力の原動力は、母親の存在だったようです。

本人も、「お母さんが大好きだった」と公言していました。彼は母親に喜んでもらうという一心で勉強等に励んでいたと言っています。彼の話の中で、数年前に重病で亡くなった母親のことを、今の自分の経済状況なら最新医療を施し救うことができたかもしれないと涙ぐんで話していました。

皆さんは、自分が頑張れる原動力やモチベーションは何ですか。私が中学生の頃、親から「勉強は自分のためにするもの」と言われました。今はその通りだと思いますが、当時は納得して頑張ることができませんでした。しかし、人の役に立つ事には自分の事より頑張ってやっていた気がします。自分よりも人のためにという思いが、一生懸命頑張れる力になると思います。

ある人が言っていました。「本当の喜びとは、人のために何かをやってあげて、その人がそのやってあげた事に感謝して喜ぶ、その笑顔を見て喜ぶこと」だと。

皆さんが勉強や諸活動に頑張って良い結果を出して、一番に喜ぶ人は両親です。お父さん、お母さんの喜ぶ笑顔を見て、本当の喜びを体験して下さい。



ライブプランニング(10月5日)

Go to Next Stage

今回は、子どもの進路に対する親の姿勢・心構え・立場を載せます。子どもにとってよりよい進路選択には、親が子どもより先に情報を持つことも必要です。参考にしてください

親子で考える進路

進路への父母の姿勢

子どもの進路に対する父母の考え方や態度には、いろいろなタイプがあります。次にあげる①～⑩のタイプで、自分たちの家庭ではどれに近いか確認してみてください。一番大切なことは、子どものことを第一に考えて進路決定することです。

- ① 一任型
「学校(先生)にお任せします」
- ② 放任型
「本人に任せます」
- ③ 場あたり型
「進路決定時になってから決めます」
- ④ 入試一本やり型
「将来の職業についてはまだ考えていません。とにかく、入試を突破させなければ」
- ⑤ 世襲同門型
「私があこの学校、上の子もあこの学校を出たので」
- ⑥ 無理矢理型
「何が何でもあこの高校(伝統校)に入らなければ」
- ⑦ 世間体型
「県立高校ならどこでもよい。不合格したらどうも」
- ⑧ 悲願委任型
「私は行けなかったので、せめて子ど

- もだけは」
- ⑨ 封建的強制型
「親が勝手に子どもの将来を決めて押しつける」
- ⑩ 客観的理想型
「親も子どもも共に考え、相談ののつてやる、担任の先生とも相談する」

父母の望ましい心構え

前記にあげた①～⑨を強調して、不自然で好ましくない考え方や態度で進路決定に臨むことは、あまり良くありません。そこで、進路決定に対する父母の望ましい心構え、姿勢はどうあるべきかまとめてみます。

- ① 子どもの能力・適性などをよく理解する。
- ② 子どもの能力・適性に合った進路選択を助言する。
- ③ 親の欲目で、進路選択を決定しない。
- ④ 目先のことよりも、将来のことを考えて進路決定する。
- ⑤ 一流校偏重の考えだけでなく、子どもの特性や特色を考える。
- ⑥ 進路について親子が平素から話し合いを持ち、子どもの考え方を尊重する。